

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業実績評価（鶴見区）

施設名	指定管理者名	評価	評価内容
潮田地域 ケアプラザ	(福) 横浜市 社会福祉協議会	S	<p>(全事業共通)</p> <p>○配食ボランティアが地域としての大事な相談窓口役となるため連携してニーズ把握に努めている。新規配食希望者には必ず地域活動交流コーディネーターが訪問・状況確認し、包括と共有して具体的な支援につなげられている。</p> <p>○法人内での人材育成制度が体系的に整備されており、年間単位の研修計画や育成リーダー制等、長期的視点で組織単位での人材育成が進められている。</p> <p>○2回の包括地域ケア会議を開催し各連合毎に地域活動者から事例発表し、地域での見守りを町域のみの課題でなくエリア全体で取り組む課題として認識してもらう機会となった。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○把握した地域ニーズに対応した特色ある事業展開ができていた（出前福祉講座・住民支え合いマップ・介護予防事業等）。特に出前福祉講座では5職種会議の中でメニュー表の作成や対応メンバーの調整など、地域ニーズに合うようにきめ細やかに対応している。</p> <p>○シニアボランティアポイント講座を開催し登録につなぎ、実際の活動場所として配食活動にコーディネートしている。また、配食活動が不足しているエリアへの対応として他地区の団体に潮田の老人会でも活動してもらえるよう調整中である等、コーディネート支援を適切に行っている。</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○情報共有については、地域活動交流コーディネーターや包括職員と、会議での進捗報告や常日頃の情報交換を通してできている。さらに、協議体へ所長や包括職員が積極的に参加しており、ケアプラザ全体での事業実施体制が構築されている。また、区社協職員や区役所職員とも意見交換を行い、事業を進めている点も評価できる。</p> <p>○自治会町内会等の単位ではなく、住民の生活圏域をひとつのエリアとした関係づくりや取組は、住民のニーズに合わせたものであり、独自の取組として評価できる。また、酒屋や銭湯、不動産業者等、地域の中で重要な役割を持つ関係者との協力は、地域の特徴に沿ったものであり、地域の目指す将来像を共有しながら、課題解決に結びつけられるよう進めてほしい。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○ケアプラザ単体ではなく、今後地域の様相が大きく変わる小野町エリアを活用しながら関係機関と連携し、サポーターのフォローアップを図るとともに、メイトへの輩出を目指して継続的な取り組みが実践できている。また、メイトの自主化を念頭に置いて支援している。</p> <p>○銭湯や不動産屋等との連携から日頃高齢者が集まる場所の把握を行い、更に高齢者が集まる場所の関係者から「一緒に何が取り組めるかを考えたい」との声を受け止め、更なる事業展開に向けて取組んでいる。</p> <p>○元気づくりステーションの活動は活発で安定的な運営が行われており、その他の住民主体の通いの場も充実してきて</p>

			<p>いる。地区の特性から取り組みがされにくいエリアについても、保健活動推進員等との連携や新設の施設と協働が行われている。</p>
<p>矢向地域 ケアプラザ</p>	<p>(福) 横浜市 福祉サービス協会</p>	<p>A</p>	<p>(全事業共通) ○障害分野の相談について民生委員や東部療育センター、配食ボランティア等適切な関係機関等と連携し、具体的な支援につなげることができている。 ○経験年数に応じた階層別研修や採用後のフォローアップ研修をはじめ、法人内で職員個々に応じて計画的に研修カリキュラムを作成し、職員のスキル向上に力を入れて取り組まれている。人材育成プログラムが体系的に整備されている。</p> <p>(地域活動交流事業) ○介護予防の脳トレの要望を受け具体化した昭和の寺子屋については新たな利用者層の呼びこみへとつながった。参加者から好評で出張相談も実施するなど、継続要望が出ており、事業自主化に向けて調整を進めている。地域ニーズに沿ったかたちで必要な取組を創出することができている。 ○地区センターと共催したこども広場（昔遊び）等、幅広い層の呼び込みを目標とした事業展開ができている。 ○夜間の利用率対策としてヨガを継続的に実施し、利用率向上につながっている。 ○アセスメントシートを5職種の情報共有ツールとして、1町ごと・職種ごとに詳細に地区診断を行い作成・所内共有している。経年の状況変化についても検証しており地域分析を効果的に進める仕組みが整理されている。</p> <p>(生活支援体制整備事業) ○各町別に作成された地域アセスメントシートは、生活支援体制整備事業の地域支援記録や各職種ごとの視点が記載されており、各町の特徴や課題がわかりやすくまとめられている。この結果は、事業展開にも反映されているため、継続的な更新が必要である。 ○個別の案件・課題に応じた協議の場を持つことができている。サービスBについては、丁寧な事前説明と申請支援により、補助金の受給につながっている。また、地域ケア会議をきっかけとした大型マンションでの取組については、見守り体制の構築やイベント企画につながっている。マンション全体の合意形成に苦労している点はあるが、協議の場を活かした事例と言える。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業) ○ケアプラザ独自事業や「とっちーホルダー」の活用を通じてネットワークの構築が強化されている。また、地域ケア会議や民生委員・ケアマネジャー連絡会では、見守り活動をマップに可視化する事で、地域毎の支援、課題抽出ができている。小規模多機能事業所の紹介も兼ねた連絡会を開催し今後の活用が期待される事業者の周知と連携促進にも貢献できている。 ○ケアプランを振り返る勉強会やスーパーバイザーを活用した事例検討会を重ねることは、ケアマネジャーの支援技術の向上に向け効果的である。また、同行訪問の場面でケアマネジャーが支援方法を見学できる機会を作ることは、具体的な支援を学ぶ場となり好評である。 ○介護予防事業は周知方法だけでなく、ケアプラザから遠い</p>

			<p>エリアや踏切を渡れなくなった虚弱の方達が参加し易くなるよう、開催場所を配慮するなどの工夫がされている。また、自主サークル代表者ミーティングでも、特にケアプラザから距離のある元気づくりステーションなどを意識して、社会参加の意義や介護予防に資する活動内容に対して支援を行っている。</p>
<p>寺尾地域 ケアプラザ</p>	<p>(福) 横浜市 社会福祉協議会</p>	<p>A</p>	<p>(全事業共通) ○支援者からの相談をきっかけに「幹」や区の保健師と連携しながら発達障害の子を持つ集いを企画したり、重度障害者の送迎についてボランティアにつなぐなど、相談を適切な取組・支援につなぐことができている。 ○あいねっとにおいては区社協とともに地域支援の中心的役割を担い取組を進めた。地区懇談会ではファシリテーショングラフィックという手法を提案し、話合いの内容を図式化、可視化することで、地域の安否確認方法の議論を活発化させ、具体的な取組案の作成につなげた。</p> <p>(地域活動交流事業) ○「発達が気になる子の親の集い」を開催し、同じ立場の人同士の場づくりを手掛けた。支援者からの相談を機に、当事者家族のニーズについて探りながら、「幹」や区の保健師と連携し課題に対応した取組ができている。 ○要支援認定の方を日中活動としてボランティア（配食、包丁研ぎ、子育て等）につなげることで 本人の介護予防とするとともに担い手づくりの取組としても手掛けることができています。</p> <p>(生活支援体制整備事業) ○マップを使った地域の状況把握やアンケートによるニーズ把握等、様々な形で地域のアセスメントを進めている。「定年後の人生を考える講座」では、受講者に対し地域活動への意識に関するアンケートを実施し、今後の事業の方向性を検討する材料とすることができている。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業) ○様々な機会を通じてケアプラザの周知に努め、構築されたネットワークから新たなケース情報を拾い上げることができている。また必要な支援に適切につなぐこともできている。 ○協力医との連携強化を目指し書式を作成。薬剤師との交流の場を設け相談しやすい関係づくりができている。 ○地域資源の少ないエリアで事業を開催するなど、高齢者が身近な場所で介護予防に取り組むことができる工夫がされている。また、講座の参加者から指導者が育成されるなど介護予防事業の拡大・充実を図ることができている。</p>
<p>東寺尾地域 ケアプラザ</p>	<p>(福) 若竹大寿会</p>	<p>A</p>	<p>(全事業共通) ○当事者や家族などからの相談を踏まえて講演会「ひきこもるということ」を定期的で開催するなど、地域ニーズを把握した上で、啓発周知を行うなど具体的な事業が展開できている。 ○サロンの運営支援など特に地域展開の面でそれぞれの専門職の強みを活かし、連携しながら事業が進められている。また、職種会議を通じた情報共有やカンファレンスでの支援策検討も円滑に図られている。 ○昨年6月の包括レベルケア会議をきっかけに買い物支援</p>

		<p>を課題として移動販売を通じたネットワークを立ち上げ、移動販売「とくしまる」の周知、高齢者の多い場所での販売会、定期的な販売場所を2箇所新設するなど、具体的な事業展開につなげた。</p> <p>○あいねっとという視点で長く見てDIG訓練を実施。各自治会の参加者の方に発災時のシミュレーションをしてもらう事で危機意識が向上し、情報も共有できた。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○相談が増えている状況から、ひきこもりに関する事業企画に力を入れた。イベントには民生委員も意欲的に参加し地域の理解を広めるきっかけとなった。当事者の不登校児の母親からも好評だった。講演会には区外、市外からの参加があった。</p> <p>○昨年度、寺尾小で実施したりアルHUG訓練を岸谷小防災拠点で実施、住民目線での運営方法の検討、対応力の向上を進めた。また、取組は馬場でも実施しており、施設間の連携につながっている。</p> <p>○横浜商科大学のボランティア活動演習の授業で学生7名に講座を開き、流しそうめん、認サポなどの取組につながり、継続的な参加につながるよう振り返りのフォローも行った。見守り事業SOYL INKサポーターの登録につながった。</p> <p>○地域包括の相談内容について、疾患別、地域別に集計を取り、詳細な地域分析・傾向把握を行っている</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○既存の紙ベースでの情報や独自に調査した情報をデータベース化し、目に見える形で情報集約・課題抽出を行うことができおり、更に、事業展開を行う上での基礎資料の根幹として活用を行えている。次年度以降も地域課題の解決に向け、継続した働きかけをしてほしい。また、事業への活用を継続してほしい。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○高齢者虐待を疑う相談において、緊急性の判断及び適切な初期対応が行えており、地域包括支援センター内部における支援方針の検討ができている。</p> <p>○特定事業所のケアマネジャーを対象とし、ケアマネジメントの質の向上に向けた研修会を開催し、更に事例検討会の自主化に向けた調整を行った。</p> <p>○「歩く会」では、会のメンバーと話を重ねることで、住民主体の意義について共有を図り、元気づくりステーションへの移行を目指した継続的支援が進められている。</p>
<p>駒岡地域 ケアプラザ</p>	<p>(福) 横浜鶴声会</p>	<p>(全事業共通)</p> <p>○高齢者、障害者、子育て支援等、幅広い内容の相談に対し関係機関と連携、必要な資源を把握した上で適切な対応ができている。障害分野だと送迎のボランティアや精神障害者の社会参加に関する相談等で区社協や区の専門職と連携しながら、的確な対応ができている。</p> <p>○要保護児童対策地域協議会、鶴見区子育て支援ネットワーク会議、区自立支援協議会等の会議や、育児教室やサークル等様々な関係機関・団体等と連携を広めた。</p> <p>○あいねっとでは特に地域の会長との調整役としてチームを牽引した。特に上末吉地区での災害時要援護者名簿の情報</p>

		<p>共有方式の協定締結に伴い、あいねっと支援チーム職員とともにフォローを行った。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○幅広い分野での事業、特に子育て世代向けの事業に精力的に取り組んでいる。事業の実施した後も課題の把握・改善に取り組んでいる。</p> <p>○今年度から障害者支援として「ホースセラピー」を東寺尾地域ケアプラザや障害者施設、養護学校と連携して実施し、20人を超す参加があった。</p> <p>○ボランティアセンターと連携し、デイサービスや自主事業実施の際のボランティアを受け入れ、継続的な活動につながっている。</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○「親の呼び寄せ」や「親子二人暮らし」等といった地区の特徴を把握し、集計項目に含める等、地域に則したアセスメントを進めることができている。今後まとめる予定の内容については、ケアプラザ内で共有ができるようにしてほしい。次年度は、その内容を計画に反映し、取組に活かしていくことを期待する。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○地域ニーズの把握に努め、認知症カフェを立ち上げることができた。認知症サポーター養成講座を開催し普及・啓発に努めている。</p> <p>○ケアプラザ協力医が講師となり、保健活動推進員と包括支援センター共催による、地域向けの生活習慣病予防講座を開催することができた。</p> <p>○前年度のGoGo健康講座から新たに2か所の居場所を立ち上げることができた。また、介護予防を目的とした「こまきち音頭」を「音楽の広場」のメンバーや地域の方々の協力を得てお披露目をする事ができた。</p>
<p>鶴見市場地域 ケアプラザ</p>	<p>(福) 大樹</p>	<p>(全事業共通)</p> <p>○子育てに関する相談は、区担当の保健師や区が派遣している子育て相談員に相談して対応している。</p> <p>○「大型マンションの見守り」をテーマに地域ケア会議を行い課題を共有した。この会議を機にマンション自治会、病院のリハビリ専門職等とネットワークを広げた。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○地域課題・ニーズに応じた子育て世代向けの事業や情報提供が展開できている。</p> <p>○夜間の利用率の対策として夏季の夜間に体操講座を開催し、毎回15名程度の参加があり、利用率向上につながった。</p> <p>○貸館の予約状況をエントランスホールに掲示し、利用者が把握しやすい工夫をしている。</p> <p>○シニアボランティア講座を開催し、参加者を植栽や配食サービス等のボランティアとして活用している。</p> <p>○登録団体を紹介する情報一覧を掲示・定期更新し、活動団体に関する情報提供を行っている。</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○高齢化率や要介護認定率等を基にした地域のアセスメントは昨年度から続けており、町ごとの分析ができている。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○独自にデータの集計を行い、区のデータと比較させ分析</p>

			<p>し、地域活動の基礎資料として活用している。</p> <p>○協力医と連携し認知症カフェを支援し、近隣住民の為の貴重な受け皿となっている。</p> <p>○医師会と交流会を実施する他、ケースを通じて開業医との連携が出来ている。関わりの深い開業医とも情報共有する機会を持ち、ネットワークの輪が拡充しつつある。</p>
鶴見中央地域 ケアプラザ	(福) 横浜 YMCA福祉会	A	<p>(全事業共通)</p> <p>○包括と生活支援の職員が、地域ケア会議の話し合いから地域のニーズを拾いあげ、「豊岡ふらっとカフェ」、「みんなの会」の立ち上げ等、部門間で連携して計画的に地域支援を行い、地域に必要な取組の創出につなげた。</p> <p>○今年度から法人として目標管理制度を本格導入し、6月に目標を設定し、半期毎に振り返り、評価している。人材育成、モチベーション向上に取り組んでいる。</p> <p>○事業所と連携してこども食堂を実施し、生協などから食材の寄付をいただくことで、新たな連携につながった。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○地域課題・ニーズに応じた子育て世代向けの事業や情報提供が展開できている。</p> <p>○平均稼働率は区内1番であり、時間帯によっては予約がとりづらい状況だが、近隣施設の紹介を行うなど、団体への定期活動の場の提供のため、丁寧な案内を行った。</p> <p>○子育て情報紙を毎月作成し、ホームページに掲載するほか、わっくんひろば等で掲示している。必要な情報をその情報が必要とする層に向けて発信ができています。</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○個別に、企業等の方々と協力し連携しながら、立ち上げ及び運営を進めることができています。「移動販売」に関しては、できる限り地域の要望に合わせ、単に買い物のお機曾だけでなく、人が集まる機会となるよう進めてほしい。「サービスB」を希望する団体については、あせらずしっかりと計画と準備を促しながら対応してほしい。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○地域の行事等に積極的に参加するなど、地域包括支援センターの役割を周知している。また、自治会加入率が低いマンションの住民と他地域住民をつなげるため、鶴見みんなの会(多世代交流サロン)を開催している。</p> <p>○行政書士による成年後見制度に関する講座を開催するなど、成年後見制度の普及啓発に取り組んでいる。</p> <p>○地域ケア会議により地域の実態を把握し、課題を分析し関係者との話し合いをすることで、専門職や地域との連携をすすめ「豊岡ふらっとカフェ」を立ち上げている。</p>
生麦地域 ケアプラザ	(福) 横浜 YMCA福祉会	A	<p>(全事業共通)</p> <p>○7月に安全週間を設け、館内点検やヒヤリハットマップ作り等を実施している。所内全体で事故予防に取り組んでいる。</p> <p>○生麦消防出張所との連携を強め、ケアプラザの主催行事等に消防署長等が参加をし、防災等についての講話を行った。消防署と協力しての出火リストの多い地域への戸別訪問や安否確認にもつながった。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○地域とのつながりのあるケアプラザの職員が毎回別々に</p>

		<p>講師となり「やさしい体操」講座を実施。参加者の声を反映しながら企画を検討し事業を実施した。</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○生麦第一地区老人クラブと共催の生麦散歩の企画を通して、地域内の老人クラブ間のつながり強化を図ることができている。</p> <p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○民生委員とケアマネジャーとの連絡会を開催した際に、民生委員より「サービス担当者会議にぜひ呼んで欲しい」との意見があった。実際にケアマネジャーへつなぐ等、地域の役員から出た声を専門職へ伝える取り組みを行うことにより連携を進めることができている。</p> <p>○地域の資源を把握し、ケアマネジメントに活用している。委託先のケアマネジャー支援として、担当者会議に同席して助言を行い、自立支援に向けたケアプランの作成に取り組んでいる。</p> <p>○今年度初めて実施した元気づくりステーションのボランティアミーティングにおいて、各グループの課題が明確となり、盆踊り以外の介護予防の取り組みが必要であるという理解が代表者の中で進む等の効果が得られた。</p>
<p>馬場地域 ケアプラザ</p>	<p>(福) 秀峰会</p>	<p>(全事業共通)</p> <p>○法人内7ケアプラザでの連絡会(分科会)・所長会を定期的に開催し、地域の対応や行政の指導等の共通課題、事例、取組状況を共有し、法人全体で改善・解決する体制が整備され、具体的に事業に生かしている。</p> <p>○地区社協との共催事業のこども居場所づくり・学習支援の取組として「学んでご飯」を実施した。</p> <p>(地域活動交流事業)</p> <p>○民生委員向けの障がいの理解講座(幹の施設見学)を実施し、地域の中での支え合いの仕組みづくりを一步進めた。今後も住民向けに実施するなど継続的な取組に期待したい。</p> <p>○今年度4つの団体が自主化した。自主化の支援として法人内の分科会でノウハウを引き継ぎ、案内チラシを配付したり、キーパーソンへの支援等を丁寧なサポートを行い、サークルの自主化につなげた。</p> <p>○地域カフェは、生活支援と連携して実施し、今まで利用が少なかった層が参加。集客には掲示板や回覧板のほか、民生委員や町会の老人クラブに声掛けやチラシ配布をしてもらった。継続を希望する声などがあり好評で、次年度も1期生に講師を依頼して開催予定。</p> <p>○すべての団体に声をかけて活動内容のチラシを団体ごとに作成してもらい活動をPRしている。また、活動参加につながるように、見た方がすぐ団体のチラシを手にとれるように館内掲示のレイアウトも工夫していた。</p> <p>(生活支援体制整備事業)</p> <p>○今年度も引き続き、各町内会で協議体を設置し、課題解決に向けた話し合いができている。また、それぞれの取組を、目的を持って積極的に進めることができている。</p> <p>○見守りを地域全体(9町内会)で考えていくことを目的とした「地域つながり活動連絡会」は、情報共有を図り、地域間のつながりを作るという点で、優れた取組であると評価できる。</p>

		<p>(地域包括支援センター運営事業)</p> <p>○エリア内の医療機関等を個別に訪問し、ネットワークづくりに取り組んでいる。医療機関からの連絡により、地域の見守りにつながった事例があった。</p> <p>○ケアマネジャーを対象とした研修会を開催し、コミュニケーション能力等を含む面接技術向上のための支援が行われ、参加者からも好評を得ていた。また、生活支援コーディネーターがインフォーマルサービス等の情報提供を行っており、ケアマネジメントの質の向上に向けた支援が行われている。</p> <p>○フレイル予防の取り組みとして、区の講演会から連動しフレイルチェックを導入・実施する等、積極的な働きかけを行うことができている。</p>
--	--	--